日比谷の圖書館へ行つて新聞を讀んだ。

新島榮治にヒョツクリ遇つて、彼が脊中をドヤしてくれと言ふので叩いてやる。

『君は佯狂に違ひないと思つて、大泉の家で君を擲ろうかと思つとつたよ』

榮治が言つた。彼は甚く何かに心を傷めたものか、寒む枯れの氣持でゐた。

『金がない腹が減つた。』と新吉が言ふと、帝劇の裏の岩佐と云ふめしやへ連れて行つて、深川めしをおごつた。

新吉は其處で子安貝を置き忘れた。

辻潤の所へ歸る。

一緒に二宮へ行かうと云ふ。

辻潤が川崎驛で切符を買ふ時、切符賣りをおごそかにドナリ付けた。

横濱で途中下車して、ナマコで酒をのんだ。

片岡旅館でも酒をのむと言ふ。

中平へ辻潤丈偵察に行つて、無想庵はたしかに熱海へ行つて留守だし、春子も田舍の村へ行つ